

## ◎景気ウォッチャー調査[2020年4月]

### 2020年4月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断DI(合計)は、前月を8.4ポイント下回る8.5となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「月の中旬以降臨時休業しているため、販売量が減少している。」(百貨店)、「新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言で客のキャンセルや予約の延期が急増している。」(都市型ホテル)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を8.4ポイント下回る8.8となった。

企業動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「中国の新型コロナウイルス対策による休業等の影響が自動車関連部品メーカーからの受注量に影響を及ぼしており、受注量は前年比で22%、前月比で7%の減少となっている。」(化学工業)、「新型コロナウイルスの影響で客からの受注が大幅に減少している。国内の一般消費財、食品関係は堅調に推移しているが、海外向けの需要はこれからますます悪化する見通しである。」(輸送業)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を10.0ポイント下回る8.9となった。

雇用関連は、「新型コロナウイルスの影響で求人企業は減少し、人員削減などに動いている企業も多くなっている。」(民間職業紹介機関)、「3月末の求人倍率は1倍を超えているが、雇用調整助成金の問合せは増加している。」(労働局)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.1ポイント下回る5.8となった。

	4月	3月	前月差
合計	8.5	16.9	-8.4
家計動向関連	8.8	17.2	-8.4
企業動向関連	8.9	18.9	-10.0
雇用関連(参考値)	5.8	10.9	-5.1

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断DI(合計)は、前月を0.6ポイント上回る16.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「2~3か月後には新型コロナウイルスの影響も今よりは緩和されている。」(商店街)等の理由から、「良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.4ポイント上回る17.5となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「2~3か月後には景気は良くなっている。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.1ポイント上回る14.5となった。

雇用関連は、「新型コロナウイルスの影響で観光土産菓子製造業や宿泊・飲食サービス業が休業に追い込まれており、今後、幅広い業種に休業が広がるため、改善が期待できない。」(職業安定所)、「雇用調整助成金の問合せが激増しており、これから申請等も予想される。事業所の閉鎖も増加傾向にあるため、景気は悪くなる。」(労働局)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を6.7ポイント下回る5.8となった。

	4月	3月	前月差
合計	16.0	15.4	0.6
家計動向関連	17.5	16.1	1.4
企業動向関連	14.5	14.4	0.1
雇用関連(参考値)	5.8	12.5	-6.7